

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600454	事業の開始年月日	令和1年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラストいずみ		
所在地	( 245-0022 ) 神奈川県横浜市泉区和泉が丘1-16-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年間レクリエーションを確立、また車両2台体制（車いす対応型車両1台・軽自動車1台）にて遠方に外出致します。（コロナ時期の為、現在は自制しております）毎月のレクリエーションやお誕生日会では、職員手作りのお菓子等を提供、飾りつけ等も魏入居者様の趣味や特技に沿って全職員でレクリエーションを考案しております。毎年開催の夏祭りは隣の大きな敷地を使用し、近隣の方もお呼びし盛大に祭りを行っております（コロナ時期の為、現在は自制しております）。月1回のお楽しみメニューや近隣のパン屋より、定期的なパンの購入（ご入居者様に選んで頂き）、施設連絡会やふくしるによる地域との連絡、協力体制の確立を行っております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月18日	評価機関 評価決定日	令和3年12月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、横浜地下鉄「立場」駅から徒歩20分ほどの閑静な住宅地にあります。敷地周辺は、畑がありオーナー所有の広場ではゲートボールの地域の人や子どもの遊ぶ姿が眺められ挨拶の交流もあります。

<優れている点>

本年度の理念と施設目標（上期、下期）は職員会議で検討を重ねて作成しています。毎月の会議で「この方針で良いか。」と投げかけ職員の意識付けと振り返りの機会としています。各研修を年間に位置づけ、時には臨時の虐待防止研修を3ヶ月継続したり、看取りの時期には管理者の指導のもとで研修を実施し、職員が最後まで見守っています。研修後、毎回各自がレポートやチェック表を提出し改善点、集計表で振り返り、次の向上に繋がっています。地域の福祉事業所会合の「ふくしる」や「施設連絡会」にも積極的に参加して地域の情報を得ています。地域から入居希望やネット操作についての相談も受け、お互いの協力連携の関係作りに努めています。

<工夫点>

移動販売車がコロナ禍で中止となり地域の障害者事業所と相談の上、利用者がパン写真のメニューから選択し月2回の購入が実現し喜ばれています。介護計画、排泄チェック、介護記録を用紙メモで補充しながら電子化のタブレット活用の記録を試みて支援に役立っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソラストいずみ
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	2022/1/6	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	弊社企業理念“人を元気にし、パートナーを元気にし、社会を元気にすること”に沿い、近隣の方、ご入居者様、ご来訪者様全員に笑顔で元気に接することが出来ている。また、事業所理念“安心、安全を第一に考え、心と心を繋ぐケア”に沿い、安心、安全に暮らして頂きながら、失語になってもご意思の抽出を続けております。	本年度の理念と施設目標（上期、下期）を、職員会議で話し合いを重ねて作成しています。毎月の会議で「この方針で良いか。」と投げかけ職員の意識付けと振り返りの機会としています。前期の施設目標「コロナを持ち込まないような健康管理の徹底」の大切さを後期も続けて取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣オーナーつながりにて、隣の広場にて行っているゲートボールの皆さま等、コミュニケーションを図り、施設連絡会、ふくしる、地域ケアプラザと模索しながら、コロナ渦においても地域の一員として会議の参加や、運営推進会議への参加をお願いしております。	コロナ禍で管理者は、積極的に地域に出かけ各福祉事業所会議の「ふくしる」や「施設連絡会」に出席し地域の情報を得るようにしています。近隣の民生委員のオーナーとも密に連絡を取り、地域の入居希望や書類の書き方の相談も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域運営推進会議の実施時に、地域の方々に認知症の方の知識や生活の様子など議題に沿って報告を行いながら、理解や支援の方法を促している。また、現在ふくしるにて、認知症の理解や支援について広く知って頂ける様、新しい広報誌についても協議しております。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実地での開催を、令和3年度から再開し、質疑応答の時間を設け、ご家族様、補佐人やオーナー様から意見交換を実施。実地以前の書面開催時には、アンケートを同封し、ご意見の収集を実施しております。	コロナ感染状況を見ながらテラスでの会議を開催し利用者、家族、自治会会長、民生委員（オーナー）区役所職員、地域ケアプラザ職員が出席しています。書面の開催時には、活動報告書、意見要望のアンケートを郵送し意見には直接、電話対応しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	病院受診や特記事項があれば、ケースワーカーへの連絡を行い、詳細を経過記録に記すことが出来ている。また提出書類等あれば直接区役所等訪問し、フェイスtoフェイスでの関係作りが出来ております。運営推進会議にも、市町村職員の方にもご参加頂いております。	運営推進会議に区役所や地域ケアプラザ職員が出席し施設より活動状況を報告し意見を受けています。区役所のオンライン会議、「施設連絡会」、毎月1回開催の福祉事業所の会合の「ふくしる」参加し情報を得て、お互いの協力連携の関係作りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	転倒や離接の可能性があるご入居者様に対しても職員が目につく席に座って頂き、拘束をしないケアを行っております。3ヶ月に1度の身体拘束委員も実施し、身体拘束の無いケアを続けております。	3ヶ月ごとに身体拘束委員会、年2回の職員研修を実践しています。具体的な事例をあげて自分の言動を振り返りる機会とし「ちょっとまってください。」などの言葉遣いや声掛け1つで拘束になることの意識づけをしています。レポートを提出し必要に応じ施設長が指導をしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本年度は、5月に研修を実施し、全職員が防止に努める事が出来ている。また7月より虐待防止委員会を設置し、他毎月のカンファレンスや、毎日の朝礼や夕礼時にも、ご入居者様の気づきを共有しております。	「虐待防止に係る指針」を基に研修を計画し、本年度は臨時に3ヶ月継続の虐待委員会を開催し日頃のケアの見直しをしています。今後は3ヶ月に1回の開催を予定しています。職員の「虐待の芽のチェックリスト」を集計し再度言動を見直し改善に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご入居者様の中に、成年後見人制度を利用されている方がおり、注意事項等の共有が出来ております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時には必ずご入居者様、ご家族様に疑問をお伺いし、理解・納得の元ご署名等頂いております。内容改定等の際には事前にご連絡、周知し、ご理解・ご納得を頂いてから対応しております。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置し、家族様などから意見が出た場合、施設で改善が出来るようにミーティングを行い、サービスの質や運営状況が改善できるように努めておりますが、現状、面会自体が中止となっており、定期的なお電話や運営推進会議時のアンケート等からのご意見を反映させて頂いております。	コロナ禍でZOOM、テレビ電話、スマートフォン、窓越しでの面会を準備し可能としていますが、直接電話やお便りでの連絡が多くなっています。「生活情報報告書」を郵送し、アンケートで要望や意見を聞き、季節ごとの行事実施などを反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1度、全体会議、カンファレンス（ユニット）会議、年に4度のキャリアパス面談（個人面談）を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、サービスやケアに反映しております。	日頃から職員間の信頼関係の構築に努め、相談や意見を言い易く「これは私がやります。」「これを教えて。」と気軽に助け合える職場雰囲気です。小鉢で食べにくい利用者に職員意見からプレート皿に変更し食べ易くなり食事の量が増えた改善事例もあります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃より、管理者は職員個々の努力や実績・勤怠状況の報告、出ている意見等を上司へ伝えております。また定期的に労働時間、年に1度給与水準の見直しを行い、就業環境の向上に努めており、弊社独自のポイント制度も活用し、日々ありがとうございますを込め、ポイント付与を行っております。	職員が制服を着用し、同じ理念のもとでの職場環境作りに心がけています。管理者が月に数回夜勤を含めて現場に入り介護支援の状況を把握し日頃の職員の指導に当たっています。毎月「ソラストポイント」制を使い、職員の仕事への意欲向上と励みにしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1度以上の研修と弊社独自のネット研修システム（ソラスクール）を活用しながら、常勤、非常勤関係無く研修を受けられる環境作りをし、個別面談時等で必要に応じてミニ研修の実施も行っております。	職員育成に力を入れ研修後に毎回、各自がレポートを書き、振り返りの機会を設けて力量を高めるよう努めています。年4回の管理者の面談も実施し、意見や相談を聞き、指導に当たっています。いつでも気軽に管理者に電話相談できる体制を職員に伝えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	入居や退去の際に関わる他事業者の管理者やケアマネージャー及び、施設連絡会、ふくしる等会議時においても交流、情報及び意見交換を行いながら、サービス向上を目指しております。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前調査や進捗を常に朝礼・夕礼にて職員へ共有出来ている。また問題点が発生すれば、議題として皆ですぐに話し合う機会を設け、改善に向け動く様にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時や入居時の契約の際にご入居者様を交えて、ご家族様などから希望や要望を聞くように努めている。また、入居前の情報から、暫定支援内容を作成し、ご確認頂き、入居時にご家族様要望を支援に反映させております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時にご本人、ご家族様から要望を伺い、要望に沿った支援や対応が出来るように努めております（訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージ等）。また、健康診断書や病歴等医師より診療情報提供書を頂き、医療面につきましても往診医へ迅速に共有、相談しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ADL等を考慮しながら、ご入居者様が出来る事を積極的に行って頂き（物の修理や家事等）生活の中で役割を持っていただいております。ご入居者様に頼る事で居場所として捉えて頂けるよう努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様の近況報告を都度報告し、相談させて頂きながら、ご家族様と共にご利用者を支えられる環境づくりを心掛けております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様からご要望やご希望が聞かれれば、馴染みの人と連絡取れるように努めております。	昔の懐かしい音楽を聴いたり、仕事で使っていた電動大工道具を大切に持っている人もいます。連絡が取れていない息子さんと会いたいという思いに寄り添い、働きかけでテレビ面会が実現できるようになり、利用者の喜びと安心感に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様同士が交流取れるよう、レクリエーションの時間を確保。また、1階・2階のご入居者様の交流を図るため、月に1度全体でのイベントを実施しております（9月より、感染予防の為、各階毎での行事開催に切り替え中）。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、情報を共有できるよう、書類を保管し、可能であれば直接訪問を行い相談や支援を行っております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様・ご家族様の思いや意向を把握する為、定期的にアセスメントや聞き取りを行っております。困難な場合も、ご本人様本位で常に検討しております。	「外に行きたい。」「甘いものを食べたい。」の利用者の意見から年間計画に季節ごとのレクリエーションを計画しています。フランクフルト・焼きそばの屋台、浴衣を着ての参加、花火大会を提供し、パンのメニューから自分で注文購入するなど買い物願望にも寄り添っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様やご家族様、ケースワーカー等からお話を伺い、生活歴や暮らし方等の把握に努めております。また経過記録、介護記録等過去にさかのぼり、これまでのサービス利用状況の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の介護記録や朝礼・夕礼、カンファレンスにて職員全員で現状の把握・共有を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の観察、ケアによりご本人様の課題とケアの在り方について、ご本人様、ご家族様、支援者等話し合い、現状に即した介護計画書を作成しております。	入居時に利用者・家族と話し合いアセスメントし、医師と看護師の意見を参考にして介護計画を作成しています。職員はフロア会議にてモニタリングを行い話し合っています。見直しは通常3ヶ月毎に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実施状況、水分や排泄等、介護記録に日々記録し、特記事項は申し送りノートやタブレットの申し送りへ入力、その他経過記録を作成し、改善事項があれば経過記録にて完了まで追っております。また朝礼・夕礼にて意見共有を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限り、ご入居者様の望む事を皆で話、実施しております。コロナの関係上、個別に買い物を通販や訪問販売（パン屋）で対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	回覧板や自治会などで施設付近の地域資源の把握、また、施設連絡会等での情報収集を行っておりますが、コロナ禍で安全に参加出来る地域資源を模索しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在利用している訪問診療と連携し、ご本人様とご家族様同意の下、適切な医療を受けられるように支援しております。	協力医療機関の内科医が月2回、皮膚科は利用者に応じて随時往診をしています。本人や家族の希望する医療を継続して受診できるように支援しています。医療情報は医師より個人別の往診記録を貰い職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護の看護師へ報告、連絡、相談を密に行い、個々のご利用者様が適切な看護や受診が出来るように支援しております。また、看護師から必要に応じて往診医へも情報共有を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、お見舞いや、ソーシャルワーカー、看護師、必要であれば医師との情報交換を行っております。また、その情報は経過記録を作成し、全職員に共有しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診医、訪問看護師と連携を取り実施しております。必要であれば、ご家族様やケースワーカー、補佐人に参加頂き、チームにて取り組む様にしております。	入居時に重度化および看取り介護に関する指針を説明しています。看取り介護を経験し、重度化や急変時には医師と相談し指示を仰ぎ、その人らしく尊厳ある終末期を迎えることができるように関係者間で共有し、看取りについて学んでいます。	看取り介護に当たっては、管理者の指導の基で研修を行い、職員が一体となり取り組んでいます。この研修を今後は年間計画に位置づけ継続して深めていくことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AED設置及び、3月に応急手当とAEDの研修を実施。初期対応につきましては、各階キッチンと事務所に連絡の流れを掲示し、円滑な対応と実践力を構築しております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策として、定期的に避難訓練を行い、職員に実践力を身に付けて頂くと共に、運営推進会議開催時には地域との連携、協力していただけるよう関係を築いております。	防災・避難訓練は年2回、日中想定と夜間想定を含めて実施しています。訓練には運営推進会議を通じて近隣住民の参加の協力を呼びかけています。非常災害用の食料・飲料水は1週間分程度備蓄し、リストも作成しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬語はもちろんの事、常にご利用者様に敬意を持ち、人格否定しないように注意しております。また、プライバシーの確保に配慮しながら対応しております。	職員は定期的に接遇やプライバシー保護などの研修を受講しています。職員は日頃より丁寧な言葉遣いで話すように心掛けています。個人情報を含む書類は施錠のかかるキャビネットに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員がご入居者様と同じテーブルにて会話をする機会を確保する様にしております。また、ご入居者様が自身の思いや希望を大切にし、ご本人で自己決定が出来るように職員がフォローし、支援するように心がけております（例：月2階のパン購入等）。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様自身のペースを大切にし、ご本人らしく生活が出来るように、希望や願いを尊重し、必要に応じて医師とも相談（食事、趣向品面）しながら支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様から好きな色や好みの服装、好みの髪型（訪問理美容）等、その方らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように支援しております。また夏服・冬服が間違わぬよう、入れ替え等管理を実施しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月1度のお楽しみメニューや、おせちや土用の丑の日といった行事食、お盆拭き、食器拭き、食事振り分けを行っております。また味見も実施し、好みの確認を行う様にしております。	献立と食材は外部業者に委託し、冷蔵・冷凍で配達され、湯煎・解凍し加熱調理しています。主食と味噌汁は職員の手作りとなっています。行事食や月1回のお楽しみ会、クリスマス会などには利用者の好きなメニューを職員と一緒に作り、楽しむ食事をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事メニュー発表時、毎回ご入居者様にカロリーの発表をさせて頂き、健康に気を付けて頂いております。またキッチンに食事形態を掲示し、職員全体で共有し、支援するようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施。また必要な方はスポンジや歯間ブラシなど活用。訪問歯科導入者については、指摘を頂いた際は職員共有しすぐに指摘事項を実施する様にしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録にて、ご入居者様の排泄パターンを把握し、声掛けを行い、行動化できるように支援。オムツ類の使用回数を少なく出来るよう、サービス提供を行っております。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を支援しています。利用者がそわそわして落ち着きがない動作などから察知してトイレへの声かけをしています。利用者のトイレでの排泄に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録にて水分管理を常に実施。最低でも1日1000cc以上摂取できるように、早番・遅番・夜勤が連携し対応。体操も1日2回行う事により、運動の機会を確保。便秘が顕著であれば、牛乳等提供し対応しております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤を使用し楽しんで頂き、リラックス効果を高めたり、ご本人の希望に添えるように入浴拒否がある際は日を変更するなど、個々に応じた入浴の支援をしております。	入浴は基本的には週2回、清拭や足湯を希望する方もいます。入浴を拒否する方には、声かけする人や時間を変えるなど工夫をしています。浴槽は左右へ動く特殊な移動式バスです。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	毎日早番出勤時に、寝具等の環境整備を行い、清潔な布団で眠れるようにケアを行っております。また雨の日以外は窓を開け、換気を実施。天気が良い日は布団を干し、必要に応じて布団乾燥機等対応を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師と連携し、1人1人の薬の目的や副作用、用法、用量について理解し、日々の経過観察により、症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみや食器拭き、簡単な修理作業等行って頂き施設での役割を持って頂く様にしております。また定期的な季節の行事、お楽しみ食、パン購入等、気分転換できるように支援しております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩（敷地内）や花火行事等のレクリエーションの実施。個別レクでの食事、その他家族様などとの外出、外泊については、コロナの状況に応じて再開予定です。	天気の良い日には敷地内を散歩し、隣接の広場や野菜畑を眺め、気分転換を図っています。ベランダで日光浴もしています。今後は、近くのスーパーや100円ショップでの買い物や、花見、紅葉狩りなどの見学も予定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身で管理できるご入居者様がいない状況。個人で必要なものは、ご入居者様に極力選んで頂き、コロナ対策として現状は職員が代わりに購入しに行くか、通販、移動販売を利用しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員見守りの下、ご家族様や知人などにいつでも電話や手紙などのやり取りが行えるように支援しております。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃、また業者と契約締結し導入している薬剤を使用し、衛生管理を徹底しております。また、食席はご利用者の関係性を考慮し配置を決め、問題が起きない様に工夫をし、問題が発生した場合、カンファレンスを行い、食席の配置見直し等を行っております。	リビングは明るく、窓辺からは栗の木やネギの野菜畑が見渡せ、換気や温・湿度の管理にも配慮しています。利用者で作成した柿や黄色のイチョウの葉、栗、赤とんぼなどの四季折々の貼り絵を飾り季節感を採り入れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室やソファー、自席など危険が無い限り、自由に過ごして頂けるよう、共有空間を使用させて頂いております。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各ご入居者様の生活歴を考慮し、入居前より使用していた家具や生活用品を持ち込んで頂いたり、ご入居者様の好みに合った物を設置し、居心地の良い環境づくりを行っております。	居室はエアコン、クローゼット、防災カーテン、ベッドが備え付けとなっています。濡れバスタオルを吊るして湿度にも配慮しています。利用者は使い慣れたイスや衣装ケース、テレビを置くなど持参しています。中には現役時代に使用した電動大工道具をクローゼットの中に大切にしまっている人もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内手すりやエレベーターなどを設置し、動線の確保も行い、各ご入居者様が自立した生活が営む事が出来るよう環境づくりを行っております。			

事業所名	グループホーム ソラストいずみ
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	2022/1/6	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の内容を全員が理解し、日々取り組み実践しています。また、毎月ホームの目標を全職員で決定し、周知徹底している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩の際にご挨拶し積極的に会話をするようにしている。また、近所の方から野菜を頂くなどの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方から相談があれば、認知症の人の理解を深めて頂ける様にお話をする機会を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではホームで予定している行事や近況報告を行い、入居者、家族、市役所職員、包括支援センター職員から施設に対する意見や要望を聞かせて頂き、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	泉区役所の生活保護担当者に相談、報告を行い、情報を共有し、助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修やミーティングなどを開き、具体的な禁止行為などを確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。防犯上玄関は施錠していますが、入居様がいつでも外出できるように支援しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3か月に1回、虐待防止の勉強会を開催し、身体拘束やスピーチロックなどの虐待防止に努めています。また、職員には定期的に虐待防止についてのアンケートに記入してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の知識習得に努め、成年後見制度が必要と思われるご家族と話し合う機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時には入居者や家族に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でも不安や疑問点等がある場合は丁寧に説明し、納得して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族から意見が出やすいように、毎月、入居者様の様子を報告している。又、ご意見箱の設置も行い、意見を取り入れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定期的に個人面談を行い、職員が意見や提案をする機会を設けている。また、月1回、ユニット会議や全体会議を行い、職員の意見や提案を聞き、業務に反映するように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度を導入し、職員自身にも自己評価をしてもらい、人事考課に反映し、仕事の成果を適正に評価している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者や職員一人一人の力量と立場を把握し、インターネットによる研修の機会を確保している。また、日々の業務の中で、介護技術について質問等があれば、その都度分かりやすく説明、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者はグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、入居後も本人の希望や困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、本人が望む事を少しでも可能にできるように努め、安心を確保し、より良い関係づくりができるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学の段階から家族やご本人の質問、要望等を確認し、不安の解消に努めている。また、入居後も面会時などにこちらから希望、要望を聞くようにして信頼関係を築くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況や状態を理解しながら、何がまず必要なかを把握し、施設として出来ること、出来ないことを明確にし、必要に応じて他のサービスを利用できるように調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は入居者の困難な場面を支えながら、入居者自身で出来ることはやっただき、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお手紙で普段の生活をお知らせし、本人と家族の絆を大切にしている。また、家族の訪問時に本人支援について一緒に考えていくようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ過で面会制限があるため、インターネットを利用し、家族との面会ができるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方、合わない方入居者同士の関係を把握し、嫌な思いをせずに、楽しく過ごして頂けるように努め、レクリエーションやホーム行事で交流する機会も設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されてからも関係性を切ることではなく、必要に応じて相談等支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向を把握できるよう努めています。意思表示が困難な場合でも会話や表情から汲みとる努力をし、記録に残して職員同士で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントや入居者が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子は、個々のケース記録や申し送りにより職員全員が把握できるようにしています。また、入居者の状態の変化に合わせ、出来ることや出来ないことを把握し、支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の状態の変化をその都度家族や関係者に知らせて、入居者と家族や関係者の意見を活かした介護計画を作成しています。また、職員同士で意見を出し合って、利用者の現状に合ったものに変えています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付いた事、工夫したことや日々の様子を記録し、職員間で情報の共有を行い、随時検討をし、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の希望や必要のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう、家族や成年後見人等に確認して利用して頂けるように取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方や行政の方々より意見を頂き、地域資源の把握に努めています。また、地域の行事等への参加や、月2回、地域密着型のパン屋を利用し、メニュー表の中から、お好きなものを選んで頂き、おやつに召し上がって頂いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	緊急時の対応などは事前に打ち合わせている。協力医療機関の主治医には、入居者の体調変化が見られた際は、報告、相談している。必要に応じて外来受診することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護師が来所し、利用者の健康管理を行っています。急変等がある場合に備えて24時間いつでも連絡がとれる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者に対しては、面会を可能な限り行い、病院関係者との情報交換に努めています。また、グループホームでの生活が可能かどうか見極め、退院に向けての話し合いは、家族や成年後見人も含め行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合には、家族・主治医・看護師・管理者・介護職員で今後の医療の協議を行い、本人や家族の希望を尊重して、看取りの実施等、終末期に向けた医療の選択を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応については、すぐに管理者・主治医・看護師に連絡できるように見える場所に連絡先を張り出している。また、AEDの講習を定期的に行い、全職員が対応できるように周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を行い、その内1回は夜間想定避難訓練を実施しています。また、運営推進会議等で災害時の協力を依頼しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的に接遇に関する研修を行い、入居者一人一人を尊重し、尊厳を大切にすることを職員に理解してもらっている。また、入浴、排泄時は、利用者のプライバシーに細心の注意をはらうようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るように声かけを行い、自己表現や意見の言い易い環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースにあわせ、見守り、介助を行っています。食事、入浴、起床、就寝、外出など本人の希望に添えるように心がけ、職員の都合ではなく本人の価値観を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回、訪問理容を利用している。また、日常的に、髭が伸びていないか、頭髪は乱れていないか等の確認を職員が行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューを見えるところに貼って食への関心を高めている。また、月に1回は季節感を感じられる特別ニューを数種類の中から選んで頂き、楽しみを持って頂けるよう支援している。食器拭き等の役割も持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の水分量・食事量の記録を取り、一日を通じて確認ができるようにしています。また、入居者それぞれの状態に合わせて、刻み食の提供等、食事形態を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きや義歯消毒を実施し、医師や歯科衛生士に指導を頂いています。口腔ケアについても1人1人に合わせた対応をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄表を確認しながら排泄パターンを把握し、間隔を見て誘導するなど、失敗することなくトイレで排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に排便の有無をチェックし、便秘の方には牛乳の提供や水分摂取の促し、体操等で運動していただくなどの対応を取り、必要に応じて主治医や看護師に相談し、排便コントロールの指示を受けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に週2回入浴されています。入浴を拒む方には、ご本人のタイミングで入れるように、時間を空けて声掛けするなどの対応を取っています。また、体調の悪い場合は足浴や清拭で対応する場合があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者それぞれの生活パターンを把握し、状況に合わせ、休息の声掛けを行っています。夜間に良眠して頂くように、昼間の活動支援をしています。また、夜間眠れない方に対して、落ち着いて頂くためにフロアで会話をしたり、お茶を飲んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	どの職員が見ても分かるように、入居者個々の服薬情報や服用している薬の目的・効果・副作用についての説明を一覧にまとめ、理解できるようにしている。また、服薬内容の変更等がある場合は、出勤時に申し送りや引継ぎノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者それぞれの生活歴や趣味等を把握し、張り合いや生き甲斐が持てるように支援をしています。また、出来る範囲で食器拭きや洗濯物量みなどの手伝いをして頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過である為、今は外出制限があるが、以前は、季節を感じて頂けるように、花見や紅葉狩り等へ出かけたり、希望があれば、車で買い物に言ったり、日常的に近所へ散歩に出かけるなどの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は施設で行っている。外出時、買い物等必要な場面では、職員同行のもと、自ら買物ができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合はホームの電話を使用し、自由に会話が出来るよう支援しています。また、手紙が届き、ご自身で読むことが出来ない方には、職員が読み聞かせるなどの支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感が感じられるように、ホールの壁に季節に合わせた手作りの貼り絵を飾っている。また、リビングにはエアコン、トイレには扇風機を設置し、温度、湿度に配慮、居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール2箇所ソファを設置して、入居者それぞれが好きな時に利用されている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に本人、家族には使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂けるように声かけしています。また、思い出の写真やお気に入りの人形等を飾り、居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室に表札を設け、居室が分かるよう工夫している。また、トイレの扉にトイレマークを貼るなどし、迷わずトイレへ向かえるよう工夫している。		

2021年度

事業所名 グループホーム ソラストいずみ  
 作成日： 2022年 1月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	看取りの研修について、実際に看取りが確定してからの研修となっている。年間研修へ入れられていない為、定期的な学習の機会がない。	年間研修計画へ、看取り介護の研修を入れる。	令和4年度の年間研修計画へ、看取り介護の研修を入れ、年間研修として研修を実施する。	3ヶ月
2	19	毎月のお手紙は、送付しており、ご家族様方からも喜ばれているが、実際のご本人様の表情等届かず、また、面会についてもなかなか来所して頂けない為、表情が戻らない。	写真の送付を、個人情報の観点からご家族様の承諾を得た上で、実施する。	年度替わりまでに、全てのご家族様に確認を取り、個別の写真か、施設の行事報告新聞等の形で毎月のお手紙に同封する。	3ヶ月
3	50	コロナ渦で、実際に一緒に買い物へ行き、選んで頂く事が難しく、衣類等については、色やイメージを聞いて、職員が買ってくる事が多く、本当の意味での選択の自由が出来ていない。	色やイメージではなく、カタログや写真から選んで頂き、購入の支援をする様にする。	施設の対応出来る購入方法を、再度確認し、購入場所でカタログや写真を収集、実際に選んで頂く様にする（現状の介護用品購入時の様なイメージ）。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月